

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園葛飾二葉幼稚園
教育理念	「自立と思いやりの心」を育てる

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	「身近な自然を保育に取り入れる」
2 実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>5/1, 6/12, 6/26, 6/30, 9/11, 9/19, 9/26, 12/5, 12/11, 12/18, 2/9, 2/20, 3/20, 計13回ねらい:『身近な自然を保育に取り入れる』 1つとして同じものがない自然が持つ多様な存在が、子どもたちの五感を揺り動かし、豊かな感受性を育み、興味関心(知的好奇心)を抱くことへとつながっていきます。 子どもたちは様々な発見(気づき)からそこに深く関わり、そこには『対話的で深い学び』が生まれます。また、子どもたち一人ひとりの気づきからは、自然と同様に、1つとして同じものがない個性豊かで優劣の無い作品が生まれます。『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない』。(「センス・オブ・ワンダー」)この言葉は、幼児期にとって、とても大切な言葉です。身近な自然を取り入れた保育の中にある教育的普遍的な価値を教職員皆で再確認し、二葉幼稚園の保育教育の柱となることを目指します。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年5月1日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>5歳児すみれ組 ・冬から春の自然の移り変わりに目を向けて、その変化やつながりに気付く。 (植物、虫、自然現象等) ・花に触れたりじっくりと観察することで、花の色や姿形、その仕組みに興味を持つ。 ・葉っぱ遊びを通して、五感を刺激する。(視覚、嗅覚、触覚、聴覚) * 味覚は食育で。 ・葉っぱには、様々な種類があることに遊びを通して気づく。 ・いろいろな草花などの自然素材を、自分らしく見立てたり工夫したりして表現する。 ・葉っぱじゃんけんでは、それぞれの葉の持つ特徴によって勝敗(小さい方が勝ち、長い方が勝ち、細い方が勝ち、ザラザラしている方が勝ちなど)を付け、より特性に気づく。 ・そのような特性を理解した上で、お気に入りの葉を集め、紙に自由に表現する。多様な自然物を集めて、自分なりにカテゴライズしたりする。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年6月12日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>3歳児あじさい組 ・日常に当たり前にある水との「出会い直し」と「新たな発見」を楽しむ。 ・雨の日ならではの楽しさを見つける。 ・しずくの滑り台(しずくの動きや変化する形を楽しむ) ・水に浮かべてみる(浮く・沈むを体験する) ・水の中に入れて自然物をすくう。 ・ビニールの中(雨列車)に入って園庭を探索する。ビニール(雨列車)の中で雨音を聞いたり、雫の流れを感じる。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年6月26日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>4歳児きく組 ・日常に当たり前にある水との「出会い直し」と「新たな発見」を楽しむ。 ・事前の保育で子ども達が興味関心をもっている水と色を発展させ、にじみ絵に焦点をあてる。 ・色水遊び、にじみ絵を楽しむ。 ・自然物の水の中での浮き沈みを楽しむ。</p>	

3 取組概要

(取組日) 令和5年6月30日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

5歳児ふじ組

- ・カツラの葉っぱにしずくを垂らして、友だちとしずくのやり取り(しずくりレーに発展)を楽しむ。
- ・色水にしずくをカツラの葉に垂らして遊ぶ。
- ・しずくを障子紙で吸い取り、にじみ絵を作る。
- ・偶然に混ざり合ったにじみ絵をじっくりとみながら、子どもの想いやイメージを聞き取り、子どもの心に浮かんだ想いやイメージを言葉や文字にして聞き取っていく。
- ・にじみ絵と言葉を合わせてにじみ絵絵本作り



(取組日) 令和5年9月11日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

3歳児あやめ組

- ・土に触れる経験を遊びを通して行い、土の魅力に気が付く。
- ・好きなものに時間をいっぱいかけて触れて、集中して取り組む。
- ・砂との出会い、滑り台、宝探しボックス、チョコ屋さん、パフェ屋さん、砂絵を楽しむ。



(取組日) 令和5年9月19日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

4歳児もも組

- ・土と砂を扱ったあそびを体験して、その特性にあそびを通して自ら気づく。
- ・土や砂の特性を活かして、自分らしく表現して遊びこむ。
- ・いつも遊ぶ園庭や畑の土と砂がどこから生まれてどの様な役割を果たしているのか、大きな視点で自然の循環にも想いを巡らせるきっかけとする。
- ・砂のキッチン、土パフェづくり、葉っぱを使ったジュースづくりを楽しむ。



(取組日) 令和5年9月26日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

5歳児ぼら組

- ・土と砂を扱ったあそびを体験して、その特性にあそびを通して自ら気づく。
- ・日々の保育室の中で人工的な教材を介して行われている保育の要素と、自然の要素を介して行う内容に、どの様な子どもの姿の変化や広がりが見えてくるかを探る。
- ・同時に、その中で日々の保育に置き替えられる要素は何かを探る。
- ・いつも遊ぶ園庭や畑の土と砂がどこから生まれてどの様な役割を果たしているのか、大きな視点で自然の循環にも想いを巡らせるきっかけとする。
- ・泥アート、泥遊び、泥の足湯を楽しむ。
- ・土ってなんでできているの？電子顕微鏡で観察する。



(取組日) 令和5年12月5日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

3歳児うめ組

- ・五感を通して出会った自然の中から、自分自身でみつけることで、選ぶ力を育む。また、自分がみつけた落ち葉には愛着を持ち、自然を身近に感じるきっかけとなる。
- ・海の生き物に葉で装飾をする作業は、葉の形や色をよく観察し、葉の特徴に気づく。
- ・落ち葉を使った自然遊び(落ち葉の魚釣り、落ち葉のお風呂)を楽しむ。



(取組日) 令和5年12月11日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

4歳児さくら組

- ・目の前にある素材をよく観たり、触ったり、においをかいだり、音を作ってみたりしながら、想像したものを創造する、具現化する楽しさを体験する。
- ・多種多様な異素材、教材を用意することで、こどもの選択肢の幅をより広げて、柔軟な思考力、発想力、創造力を育む。
- ・自分が好きなものやことを目の前にあるものから見つけることができる力を育む。
- ・想像していたことと違う結果が出て、なぜ思ったことと異なるのかを考え、再度工夫を試してみる、好奇心を刺激し、ものごとに取り組む楽しさを体験する。
- ・多種多様な自然物、異素材、教材を使って発明品を作る。



3 取組概要	(取組日) 令和6年12月18日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>3歳児ひまわり組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭の季節の移ろいを遊びを通して感じ楽しむ。 ・春に芽吹いた緑の葉が、秋、冬になり木々の葉っぱの色が変わり、葉っぱが落ちたことで、木や枝、根っこの姿形の面白さに出会う。 ・いつもの「かくれんぼごっこ」のあそびを、自然の姿かたちの中で顔をイメージしたり想像力を高めて遊びこむ。 ・自然あそびの世界に、ファンタジーの世界を楽しむ要素があることに保育者として気づき、豊かで柔らかな感性を育む。 ・森の小人のお友だちを作る。落ち葉の下からかくれんぼ。森の小人を探してみつける。 	
	(取組日) 令和6年2月9日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>5歳児ゆり組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の光を感じる。 ・園庭のいろいろな影を見つけて、その様子を楽しみ、自分たちでも影を作って遊ぶ。 ・いろいろな影と色を楽しむ。 ・影踏みごっこ、影合わせ、光と影の遊び、影絵シアターなどを実際に自分で行い、体験する。 	
	(取組日) 令和6年2月20日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>4歳児すずらん組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風(空気)の存在に気づき、興味関心をもつきっかけになる。 ・見えない風を見る想像力や、表現する力を育む。 ・風に挨拶(出会いを意識する)。 ・自分たちで風を作り、どんぐりをころがす。 ・風で捕まえる。パラシュート(松ぼっくり)を作って風を捕まえる。 ・風を描く。 	
	(取組日) 令和6年3月20日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>全体研究会</p> <p>全12回の事前ミーティング、当日まで・当日・それ以降の保育活動、事後振り返りミーティングといて、一連の取り組みの検証・研究会の実施。</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身近な自然を保育に取り入れる」活動のねらい、取り組み内容、効果、課題の検証・共有、および、次年度への継続した取り組みのため、レポート「ふたば通信」の発表。 	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	<p>写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	<p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	<p>写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

効果検証報告書

施設名		幼保連携型認定こども園葛飾二葉幼稚園
教育理念		「自立と思いやりの心」を育てる
事業の区分(5領域)		健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名		身近な自然を保育に取り入れる
2 事業概要		自然保育コーディネーターのウレシパモシリ代表の高橋京子先生をはじめ、ウレシパモシリのスタッフ3名をゲストティーチャーに、「身近な自然を保育に取り入れる」をテーマに、身近な自然がたっぷりの当園の園庭をフィールドに、幼児クラス全12クラスに、四季折々の園庭の自然を取り入れながら、ゲストティーチャーが担任と連携しながら自然保育を行う。当日のみの体験ではなく、年間を通して子どもたちが体験できるように、事前準備から、当日の保育後、その後もミーティングを行う。
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 顧問・ゲストティーチャー ウレシパモシ4名・千葉大学名誉教授 首藤久義氏 担任、フリー教諭、主任 事前ミーティング(オンライン)・当日までの導入期間・当日・当日の事後ミーティング・翌日以降の保育へつなげる
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 事前にオンラインミーティングを行うことによって、当日のねらいを明確にすることと、当日のゲストティーチャーによるかかわりをより豊かにするために、導入期間として、当日のプログラムに沿う経験を積めるようにした。そのため、当日の内容に、より親近感をもって体験することができ、より興味関心を引き出すことができた。その日の体験に終わらないように、年間を通してのねらいを持ち、他クラスの活動も取り入れて、一年を通して様々な身近な自然を保育に取り入れ、子どもたちの経験値を広げることができた。
計画時	4 事業のねらい	1つとして同じものがない自然が持つ多様な存在が、子どもたちの五感を揺り動かし、豊かな感受性を育み、興味関心(知的好奇心)を抱くことへとつながっていきます。子どもたちは様々な発見(気づき)からそこに深く関わり、そこには『対話的で深い学び』が生まれます。また、子どもたち一人ひとりの気づきからは、自然と同様に、1つとして同じものがない個性豊かで優劣の無い作品が生まれます。『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない』。(「センス・オブ・ワンダー」)この言葉は、幼児期にとって、とても大切な言葉です。身近な自然を取り入れた保育の中にある教育的普遍的な価値を教職員皆で再確認し、二葉幼稚園の保育教育の柱となることを目指します。
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 身近な自然が持つ多様性に触れることで、子どもたちの五感により敏感になり、さまざまな興味関心を引き出すことができた。それと同時に、自然素材の持つ多様性が表現の多様性を生み、より豊かな言葉を引き出し、より多様な人間環境を気づききっかけともなった。画一的な教材とは違い、多様な作品が生まれることによって、優劣がなく、自己肯定感にもつながっている。 自然が持つ多面性が、子どもたちのなぜ?どうして?の心を育て、深く関わる経験を生んでいる。更に、子どもが感じて主体的に考えて行動できたことで、それを引き出すための保育環境(モノ・コト・ヒト)を保育教諭が主体的に創造し、「保育って楽しい!」と思える様なきっかけとなった。
事業後	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 身近な自然がテーマなので、1年を通して、その時期その時期に合った内身近なテーマを設定した。主なテーマは○草花 ○雨・水 ○落ち葉 ○光・風 ○土・砂と、園庭にある身近な自然素材を利用した。それによって、ゲストティーチャーとともに体験した活動を、日々の園生活の中で、年間を通して楽しめるようにした。
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 自然の多様性・多面性に興味を持ち、自ら関わることで、主体的な活動となり、遊びは学びにつながっていった。また、いくつかのテーマをそれぞれの学年やクラスが体験することで、他クラスの子どもも交わる自由活動においても、活動や遊び、体験が共有できた。とくに縦割りの活動では、5歳児が3歳児などに積極的に関わって、体験の共有を図ることもできた。

計画時

<p>6 環境構成</p>	<p>まずは、保育教諭自身が、園庭の環境を知り、身近な自然の変化や違いに気づくこと、興味を持つことを第一の目標とした。そのため、オンラインによる事前ミーティングで、自然保育コーディネーターと、二葉幼稚園の園庭の自然についての意見交換することから始め、自然素材の活用方法、経験できる内容の予想、発展する遊びについて、また、作成した日案に関しても何度か意見交換をした。</p> <p>特に園庭には身近な自然がたくさんあるので、コーナー環境を考え、子どもたちが自ら自然との関わり合いを選択できるようにし、主体的な活動へとつながる工夫を行った。</p> <p>また、養護的な配慮として、たとえばアジサイの毒性を事前に把握したり、どんぐりの誤飲、枝の危険性を考慮した環境設定を考えた。</p> <p>・屋外用保育用テーブル4台・屋外用保育用ベンチ8台、・筆、調理器具(フライパン・鍋・まな板・やかん)、紙コップ、画用紙、絵具、ビニールシート、スポイト、電子顕微鏡、鏡、小枝、丸太輪切り、葉、落ち葉、どんぐり、土、砂、砂利など。</p>
---------------	--

事業後

<p>6についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>「保育室で行っている保育を園庭へ」、「園庭でおこなっている遊びを保育室へ」をスローガンに、晴れの百も風の強い日も、雨の日も、天候に関わらず、年間を通して実践することができた。</p> <p>特に普段保育室で行っていることを園庭で行うため、テーブルやイスなど、できるだけ保育室の環境に近づけることで、普段の活動をスムーズに行い、園庭にある自然素材を教材として使用した。そのことによって普段の保育に今まで以上に多様性が生まれた。</p> <p>養護的配慮では、事前に職員間で自然素材のリスクを確認することができた。</p>
--------------------	--

<p>7 期待される効果 児童の姿</p>	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <p>子どもたちがそれぞれいろいろなこと(自然物・自然事象)に興味関心を抱き、自ら関わろうとし、自然がもつ多様性が、さらに終わりのない興味関心につながる。そこには、認定こども園教育保育要領の五領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)や、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(省略)に深く関わり、それぞれの領域・姿が多様な形で子どもたちが経験できると考える。</p>
---------------------------	---

事業後

<p>7についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>身近な自然が持つ多様性が、多様な人間関係を生み、その子ども自身が感じたままの多様な言葉が生まれ、優劣のない多様な作品(表現)が出来上がる。自然を感じることは五感を刺激することであり、子どもたちの探求心が、主体的な活動へとつながっていった。</p> <p>興味関心は、例えば、花であれば、色彩、花びらの数・形・多きさといった数や大小・形。匂い、感触(ザラザラやツルツルなど、その物事の本質の理解へとつながっていった。違い、似ているところ、さらにはそれらが存在する場所への興味関心に広がったり、さらにそこから名前に興味を持ったりしていった。</p>
--------------------	---

<p>8 効果検証 総括</p>	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <p>子どもたちは、園で過ごすにあたって、さまざまな“環境”を通して「あそび＝まなび」します。その“環境”とは、保育室(園舎)や園庭に始まって、教材、そして保育教諭のかかわり方まで。“環境”を通して、子どもたちの行動や気づき、経験する(してほしい)内容など、いろいろなことを予想しながら、先生は、日々“環境”について考えています。</p> <p>二葉幼稚園が保育の大きなテーマとしている『身近な自然を保育に取り入れる!』では、一つとして同じもののない自然(自然素材)が持つ多様な存在が、子どもたちの五感を揺り動かし、豊かな感受性を育み、興味関心(知的好奇心)を抱くことへとつながっていきました。</p> <p>子どもたちは、様々な発見(気づき)から、それに深く関わり、そこには『対話的で深い学び』が生まれます。また、子どもたち一人一人の気づきからは、自然と同様に、一つとして同じもののない個性豊で“優劣のない作品”が生まれます。</p> <p>『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない』。この言葉は、アメリカのベストセラー作家であり海洋生物学者でもあったレイチェル・カーソンさんの言葉です。</p> <p>まさに子どもたちが、自然を通して学び、感じ、体験したことが、小学校以降の学びへとつながって行くと考えます。</p>
----------------------	---